

手術を受けても治らなかつた脊 柱管狭窄症の痛みとしびれが、 プラセンタ注射で大幅改善

清水伸一

変形性腰椎症が悪化し 脊柱管狭窄症を発症

奥さんと二人でラーメン店を営む岡本龍一さん(仮名・五十八歳)は、今から一〇年ほど前に腰痛を患い、整形外科で変形性腰椎症と診断されました。岡本さんは、鎮痛薬を服用したりコルセットを装着したりして腰痛の改善に努めました。し



プラセンタ療法で仕事にも復帰

かし、お店では一日じゅう立ちっぱなしで仕事をしなければいけないこともあり、状態は悪くなるばかりでした。

やがて、腰痛に加えて左足のこむら返りや、左殿部と左足の痛みとしびれも伴うようになり、三年ほど前には、立ち仕事を三〇分続けるのがやっとという状態になっていました。仕事の合間に腰や左足をもみほぐす

などしてこまかしていましたが、それも限界があり、最終的にお店は全面的に娘さんに手伝ってもらうことになりました。あまりに病状がひどいので、改めて別の整形外科を受診すると、今度は腰部脊柱管狭窄症を発症していると告げられ、手術をすすめられました。手術で痛みが治まり、仕事に復帰できるのであればと、昨年七月、岡本さんはすずめに従って、手術を受けました。

ところが、術後八カ月がたっても痛みとしびれは残ったままで、やはり仕事はまともにできませんでした。何度か主治医に相談しても「手術はうまくいったので、傷んだ神経が回復するまで気長に待つてください」といわれるばかりで、不安は大きくなるいつほうでした。

半年後にはラーメン店の仕事に復帰できた

そんなとき、岡本さんは知人

から「傷んだ神経の回復にいいらしい」とプラセンタ療法の紹介を受け、今年三月、当クリニックを訪れました。

私は、岡本さんに週一回、二アンブル(二アンブルは二回)の皮下注射を行いました。プラセンタ療法の効果は一カ月で確認できました。痛みとしびれが改善しはじめ、それに伴って、動きが軽くなったのが全体的に軽く感じられるようになったと岡本さんは話していました。

さらに、治療を始めて二カ月後には痛みとしびれは、治療前の七割、三カ月後には六割に軽減したそうです。

現在も岡本さんはプラセンタ療法を続けていますが、脊柱管狭窄症による痛みとしびれは治療前の半分まで改善しました。一時は閉店さえ考えたラーメン店の仕事にも復帰し、娘さんの手助けも受けながら奥さんを含めた三人で仕事に励んでいます。

私の治療経験では、岡本さんのように術後の経過がよくない患者さんの場合、プラセンタ療法を行うと、症状の五〇%程度が改善するという印象があります。

歩行困難に陥りウツまで招いた 脊柱管狭窄症がプラセンタ注射 で劇的に回復し、元気に歩けた

清水伸一

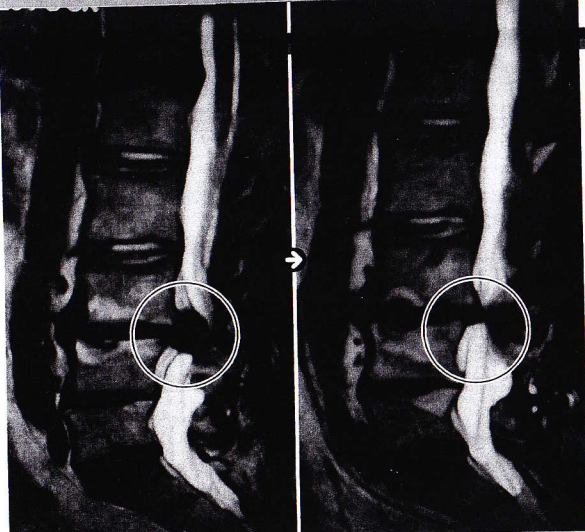
脊柱管狭窄症で ウツ状態にも陥った

今年七十四歳になった高野美津江さん(仮名)は、六十歳で退職するまで四〇年間にわたって小学校で学校給食を作ってきた

ました。大量の食材を運んだり、大きな調理器具を扱ったりといった重労働を長年続けてきたせいか、四十歳ごろから慢性腰痛に悩み、たびたびギックリ腰にも襲われていました。そして、退職時には腰痛変性すべり症を発症し、七十歳になるころには、足腰の激しい痛みと、三〇日も満足に歩けない間欠性跛行を伴う腰部脊柱管狭窄症に陥りました。

高野さんは整形外科で手術を拒否。代わりに神経ブロック注射を受けてみた

脊柱管狭窄症にプラセンタ療法を行う前(左)と1年2ヵ月後(右)のMRI画像。狭窄による神経への圧迫が軽減している。



の、翌日には痛みがぶり返してしまふので、これもしばらくするとやめてしまいました。

どこに行くにも杖が手放せなくなり、腰を大きく丸めなければ歩けない状態に高野さんはシヨックを受け、夜眠れなくなったり、外出せず家の中でふさぎ込んだりといったウツ症状も現れました。

そんな高野さんのようすを見て、なんとかしてあげたいと強く願った家族が、インターネットや雑誌などで情報を集めた結果、プラセンタ療法の存在を知ったそうです。そして、高野さんは、今から約一年前の昨年九月、家族に連れられて私のクリニックへプラセンタ療法を受けにやってきました。

足腰の激痛が 半分以上消えた

ほかの人と同様、高野さんにも週一回、二アンブル(二アンブルは二回)のプラセンタ注射

を皮下へ行いました。高野さんに最初に現れた変化は、ウツ症状の改善です。治療を始めて一カ月がたつとふさぎ込んでいた気持ちが晴れ、よく眠れるようになったといえます。

痛みの改善効果が現れたのは、治療二ヵ月後のこと。自力ではまともに歩けないほどの足腰の激痛がだんだんと和らぎ、痛みが三割ほど弱くなったと話していました。

とはいえ、まだ歩くのが不自由そうだったので、注射をツボやトリガーポイント(押すと痛みを感じる部位。圧痛患へ行うよう切り替えました。するすると、痛みの改善効果は顕著になり、三カ月、四カ月とたつにつれて病状はどんどんよくなり、半年後の今年三月には、足腰の痛みは治療前の四割程度にまで回復しました。そのころには、杖をつきながらですが、非常に元気に歩けるようになっていました。

高野さんは現在も通院を続けていますが経過は非常に順調で、先日の来院のさいには「この夏には家族とハワイ旅行を楽しんできた」と私に報告してくれました。

★わかさ次号一月号は十一月十六日発売です。ただし、東海近畿並びに四国各県は十五日発売。